
スライムショタ


スライムショタ
ビクン
ぺあ
ズチュン


スライムショタ
あっ
あぁ～
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
プシュッ
バチュン
バチュン
バチュン
バチュン


スライムショタ
ぐぐぐ
ビュルルルル
トプトプ


鳥人ショタ


鳥人シヨタ
ズプーン


鳥人シヨタ
ビク
ビク
おっ
おっ
ブル
ズプン
ズプッ
ズプッ
トロォ
ブビ


鳥人シヨタ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ビュルルルッ
ボロ ボロ
パン
ブチュッチュッ
パーン

ウェアウルフショタ




ウェアウルフショタ
ギシ
うあああっ
ビクン
ズプン


ウェアウルフ
ショタ
トロォ
ブシュッ
ブシュッ
ブシュッ
ブシュッ
ブシュッ


ウェアウルフ
ショタ
んおおおおっ
ビュルルルッ
ブチュチュッ


ウェアキャットショタ


ウェアキャットショタ
ズプン


ウェアキャットショタ
やっ
パン
パン
パン
パン
パン
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
トロッ
やっ
やっ
やっ
やっ


ウェアキャットショタ


ヴァンパイア
ショタ
ズイッ


ヴァンパイア
ショタ
プル
プル
ブ
ズ
んぐ


ヴァンパイア
ショタ
グイッ
ズンッ
ぐんぐっ
じゅぽっ
じゅぽっ


ヴァンパイア
ショタ
グ～ッ
ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ


鬼ショタ


鬼ショタ
うあっ
ズリ
ズリ
ズリュ
サス
サス


鬼ショタ
ブル
んっ
ムラっ
アーン
アーン
アーン
ブル
ブル
ブル
クチュ
クチュ
ブッ
ブッ
ブル
ブル
プシュ


鬼ショタ
ガッ
ガッ
ガッ

アルラウネショタ




アルラウネショタ
あっ…
ズプッ


アルラウネショタ
あっ
あっ
ニヤニヤ
プル
プル


アルラウネ
ショタ
ビクッ
ビクッ
ひぁあああっ
ビクッ
ビクッ
プシャアアッ
ビクッ
ブチュブチュッ
ビクッ

ドラゴンショタ




ドラゴンショタ
ブププッ
ビクンッ
うぁぁっ


ドラゴンショタ
パン
パン
パン
パン
パン
トロォ
ヤァン
ヤァン
おっ
おっ
ヤっ


ドラゴンショタ
ドプドプ
ビク
ビクビク
ビクビク
ビク

エルフショタ




エルフショタ
パン
パン
パン
ギリ


エルフショタ
ブル
ブル
ブル


エルフショタ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
おっ
おっ
クチュ
クチュ
ドピュ
ドピュ


ゾンビショタ


ゾンビショタ
うあぁ
ビクン
ブチュッ


ゾンビショタ
おっ
おっ
おっ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ


ゾンビショタ
ぁぁぁぁ
ブチュブチュ
ジュルルルッ

触手ショタ




触手ショタ
ビクン
ひゃあっ


触手ショタ
じゃる」
はっ
はっ
じゃる」
はっ
はっ
ビクン
トロォ


触手ショタ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
じゅる
じゃる
ぶあ
あああ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ


ゴーレムショタ
しっ


ゴーレムショタ
ゴッ
ゴッ


ゴーレムショタ
めぁっ
パァン


ゴーレムショタ

サキュバスショタ




サキュバスショタ
ズプププ


サキュバスショタ
ん…
ん…
ん…ん…
フプ…
フプ…
フプ…
フプ…


サキュバスショタ
ブルンブルン
あはあああ
ブル
ブルル
ブル
ブル
プシュルル
ブチュブチュ


妖精ショタ


妖精ショタ
ズクン
うあああっ
ズルッ
ボコォン


妖精ショタ
おっ
ぐっ
ぐっ
ズッ
ズッ
ズッ


妖精ショタ

魔王ショタ




魔王ショタ


魔王ショタ
あっ
あっ
あっ
トロォ
ビクン
ビクン
ヘコ
ヘコ
ヘコ
ヘコ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ


魔王ショタ
おほおおっ
ビクビクッ
ガクッ
プシャアアッ
ドピュッドピュッ


スライムショタ
モンスターを捕獲して調教する、モンスターハンター。
彼らの中には、ショタモンスターを特に選んで捕獲する者達がいる。
「に、人間・・・！？　な、何するんですか・・・？」
彼らは、ショタモンスターを顧客の希望通りに調教して売ったり、労働力にしたり、あるいは自分の楽しみのために使用している。



ハンターの中には、ショタモンを性欲処理に使用する者も多く、
法に触れるため人間のショタ相手にはできない過激なプレイが
許されることが大きな理由になっている。


スライムショタ
「あっ♥　あっ♥　中‥熱いっ♥　だめぇっ♥」
「人間のおち〇ぽ‥‥っ♥
僕の身体よりすごい‥熱いっ♥
溶けちゃうよぉっ♥」
ショタモンの種類によって様々な特性があり、“使用感”が違うらしい。ハンターの中には、特に好みの種類を捕獲して、専門に扱う者もいるそうだ。



ショタモンは、人権が認められていないため、どのように扱っても罰せられることはない。ハンターたちに取って、恰好の性欲処理奴隷になるのである。

鳥人族のショタモンは、色白で美形として知られており、
高値で取引されることが多い。

鳥人ショタ



この鳥人ショタは、
ハンターから売られ、
新たなご主人様の元で
労働をさせられているようだ。

しかし、鳥人族は気位が高く、反抗的な性格であるとも
言われている。

「くそっ、何で俺が荷物運びなんて･･･っ！」

しかし、反抗的だからと言って、甘い顔をしてはいけない。
プライドを挫いてこその躾けである。

鳥人ショタ



『ちゃんと働かないなら、身体でご奉仕させてやろうか』

「嫌だっ！　俺に触るな‥っ！　ひぃっ♥」


『おら、こっちのご奉仕の方がいいのか？
もうち〇ぽから汁を垂らしやがって』
鳥人シヨタ
ビク
ビク
お」
お」
ブル
ズプ」
ズプ」
ズプ」
トロォ」
「やめっ♥　おっ♥　お♥　そこっ♥　突くなぁっ♥」
『嫌々言いながら、どんだけ締め付けてきてんだよ。中に出すぞ』
「まっ！　だめだっ！　出すなっ！　絶対出すなよっ！」


「んひいいぃぃっ♥　やめてっ♥　もう突かないでっ♥
い、イッてますっ♥　イッてるからぁっ♥」
鳥人ショタ
パン
パン
パン
ブチュッ
チュッ
ビュルルッ
『もうメスイキしてんのか、エロいケツま〇こしやがって。
真面目に働く気になるまで、何度でも中出ししてやるからよ！』
「ゆっ・・・ゆるしてぇぇっ♥」
ショタモンは、新たな主人の元に売られても、平穏な生活が
得られるわけではないようだ。

ウェアウルフショタ

ショタモンの役割は、
荷運びなどの実務的な仕事から、
愛玩ペット、使用人など、
多岐にわたるが、
このウェアウルフ
ショタの場合、
闘技場で闘犬として
戦わせられている。
もちろん、
命を取るほどの戦いでは
オーナーが損をしてしまうので
途中でストップが入るのだが、
このウェアウルフショタは
連敗続きで、ご主人様を
怒らせてしまったようだ。




ウェアウルフショタ
『これからたっぷりお仕置きしてやる。
二度と負けたくなくなるようにな』
ギシ
うあぁっ
ビクン
ズプン
「ざけんな！
何で俺がお前のために、仲間と戦わなきゃいけないんだよっ！」


ウェアウルフショタ
『そりゃあ、負けてお仕置きされたくないからさ』
「ひっ♥　やめっ♥」
トロォン
ビクッ
ビクッ
ビクッ



メスイキ地獄を味わわされ、プライドをへし折られると、ウェアウルフと言えども従順になる。そして、刺激になれた頃には、今度はご褒美にメスイキさせてもらえるように、必死に戦うようになるのだとか。


ウェアキャットは、ウェアウルフと比べて力が弱く、一般人でも腕力で屈服させやすい。成獣になっても、一回り体つきが小さく、そのため愛玩ペットとして飼われることが多い。
ウェアキャットショタ
『子猫ちゃん。今日もたっぷりご主人様にご奉仕できるよな？』


ウェアキャットショタ
「ひうぅ♥」
『あ～、柔らかくて最高だわ。お前にも、たっぷり楽しませてやるからな』
ズプン
「うぅぅ･･･、は、はい････」
（くそっ、何で俺がこんな目に･･･っ！　でも、逆らったらまた飯抜きにされるし･･･っ！）


『はは、奥届いてるなこれ。締め付けすげぇ！』
ウェアキャットショタ
パン
パン
パン
パン
パン
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
やぁ
やぁ
やぁ
トロォ
「あっ♥やぁあっ♥　あっ♥　やぁあっ♥　あ‥っ♥」
（嫌なのにっ♥　嫌なのに気持ちいいっ♥　くそっ♥　なんだよこれっ♥
お、おかしくなるっ♥　こんなの毎日されたら‥っ♥　俺‥‥っ♥　俺‥‥っ♥）



「おほおおぉ･･･っ♥」
『あ～っ、中にいっぱい出てる。ケツま〇こヒクヒクしてるな。
お前も楽しんでるんだろ？』

「あっ♥　あぁぁ･･･っ♥」
（これヤバい･･･っ♥　き･･きもちいい･･･っ♥　戻れなくなる･･･っ♥
こんなの覚えたら･･･っ、元の生活に戻れねぇよぉ･･･っ♥）
ショタモンが仮に逃げ出せたとしても、人間に飼われる以前の野生生活にそのまま戻れるわけではない場合が多い。ショタモンの試練は続くのだった。


ヴァンパイア
ショタ
ショタモンの中には、滅多に捕まらない希少価値の高い者たちもいる。
中でも、ヴァンパイアなどは、特に高値で取引される。
ヴァンパイアの弱点は研究され尽くされているため、人間側も、脅しの手段には事欠かないようだ。
ズイッ
『いつもみたいにご奉仕しろ。
でないと、聖水を飲ませて腹の中から焼き殺すぞ、いいな？』


ヴァンパイアショタ
『そうだ、ちゃんとしゃぶれよ？　怠けてると、
ケツの穴でご奉仕してもらうことになるからな』
（くそ･･･この私がっ！　こんな･･･こんな下衆にっ！）
『ははは、いいね、そのみじめな顔。せっかく高い金
払って買うたんだから、楽しませてもらわないとな』
プル
ヴ、
ズ、
んぐ
『おら、もっと奥まで咥えろよ！』


ヴァンパイアショタ
「ん〝ん〝ぅ♥」
『喉でち〇ぽを扱くんだよ、真面目にやれよ、おら！』
ガシッ
（気持ち悪いっ！　うぅぅっ！　クソッ、こんな奴！
父様がいれば、絶対殺してくれるのに･･･っ！）
ズンッ
じゅぽっ
じゅぽっ
ずんずん
『はぁ、そろそろ出そうだな。中に出すから、全部飲み込めよ？』
「んん～～っ！！」

ヴァンパイアショタ

「ん〝ん〝ん〝～～～っ♥」

グ～

『あ～、ヴァンパイアの口の中気持ちいいわ。
牙が微妙にこすれるのがたまらないぜ。
いいか、全部飲み込めよ。
血の代わりに、精液がお前の餌だからな』

（くそ‥っ！　いつか絶対殺してやる‥っ！！）

ヴァンパイアショタは、人間と比べて
長寿なので、何十年もの間、
幼い姿のままで主人に飼殺される。
屈辱的な期間もその分長引くのである。

鬼族のショタモンスターは、怪力で知られている。
粗暴な性格から、主に荷運びなどの肉体労働に回される
事が多いが、それで済むかはご主人様の嗜好次第である。

鬼ショタ



「くそ！
何で俺が人間なんかの
ために働かねぇと
いけねぇんだよ！」

『おい、作業が遅れてる
じゃないか』


鬼ショタ
『早く運び終えないと、
また夜の仕事を追加することになるぞ？』
「じゃ、邪魔すんなよ！
お前の命令で働いてるんだろっ！」
『気にしないで続けろよ。
でも、この調子じゃ、
いつまでかかるかなぁ』
「ふ、ふざけやがって…っ！」
うあっ
ズン
ズン
ズン
サス」
サス」


『どうした、まだ半分も終わってないぞ？』
「んっ♥　くうぅ♥
も･･･触んなってぇ･･･っ♥」
『もし夕方までに終わらなかったら、
夜は他の従業員の所に仕事に
行ってもらうかなぁ。
お前は鬼にしちゃ
かわいい顔してるし、
たっぷり可愛がって
もらえるぜ？』
「やめっ♥
手を放せよぉ･･っ♥
ほ、ほんとに終わらな･･･っ♥」
鬼ショタ
んっ
くうぅ
ブル
ブル
ブル


鬼ショタ
「あ〝あ〝あ〝～～っ♥」
『お、メスイキしてるじゃねぇか。
真面目に働けっての。
精液で荷物汚しやがってよ』
「やっ♥　だめっ♥
放し♥　今はぁっ♥
ち、ち〇ぽだめっ♥
くそっ♥　くそぉ♥
お、覚えてろよぉっ♥」
鬼族であっても、ショタではまだ人間には腕力で勝てない。
幼いうちから身分の差を叩きこみ、成年を迎えるまでに、人間に
服従するよう躾けておくのが肝心なのだ。

アルラウネショタ

モンスターというと、人間と敵対する凶悪なものばかり想像しがちだが、中には、人間に対してあまり敵対心を持たない種族もいる。
アルラウネなどの、植物系のモンスターなどは、比較的人間に対して友好的である。



といっても、無理やりさらわれてきたことに違いはないのだが。


「あ、あの・・・お身体洗いますね・・・」
温厚な性格の多いアルラウネショタなどは、見た目の繊細さ等も相まって、身の回りの世話をさせる使用人などにさせられやすい。
アルラウネショタ
あっ…
ズプズプ
「ご、ご主人様のおち〇ぽも・・・僕の中で洗い・・・ますね・・・♥」


「あっ♥　あ‥♥　き、きもちいい‥‥ですか‥‥？♥
ま、まだ‥‥続けますか‥‥？
あ‥‥は、はい‥‥♥」
アルラウネショタ
あっ
あっ
ニャニャ
プル
プル
（こ、こんなことして、いいのかな‥‥。
人間って、こうやって子供作るんじゃなかったかな‥‥。
ぼ、僕も赤ちゃんできたりしないよね‥‥‥？）


「あっ♥　ひあぁぁっ♥　だめっ♥
これ･･･きもちいぃっ♥
やっ、やだっ♥
中に出さないで･･･っ♥
あ、赤ちゃんできちゃうぅっ♥」
アルラウネショタ
ビクッ
ビクッ
ひあああっ
ビクッ
ビクッ
プシャアアッ
ビクッ
ブチュブチュッ
ビクッ
このアルラウネショタは、ご主人様から嘘の知識を教えられて、からかわれているようだ。こういった無知な側面も、ショタモンの魅力と言えるのかもしれない。

ドラゴンショタ

愛玩ペットになるのは、無力なショタモンばかり
とは限らない。ドラゴンなどの、人の手に負えないような
強力な存在でも、幼獣の間は愛玩ペットとして飼われる
場合がある。



『ドラゴンのケツま〇こ、最高らしいじゃねぇか。
高い金払って買ったんだから、たっぷり元を取らせてもらうぜ』


「うあぁっ♥　放せっ！　抜けよっ！　変態野郎！！」
『悪態突きながら、熱いケツマンギュウギュウに
締め付けやがってよ。本当は犯してほしかったんだろ？』
ドラゴンショタ
ブプッ
ビクンッ
うあぁっ
「やめろっ！　抜けっ！　ぶっ殺すぞっ！！　人間！！」


ドラゴンショタ
『うわ、キツくて最高だな、ドラゴンケツま〇こ！
前立腺ここか？　おら、メスイキしろ！　おら！　おら！』
「おっ♥　おっ♥　やめっ♥　そこやめろっ♥
くそっ♥　おっ♥　おふ♥　おっ♥」
パン
パン
パン
パン
パン
トロォ
ヤァン
ヤァン
おっ
おっ
ヤッ
『しっかり感じてんじゃねぇが、この変態ドラゴンが。
ケツ犯されてイけ！　中出ししてやるよ！』



ドラゴンショタの受難は、まだまだ尽きないようである。

エルフショタ

捕獲数、価格等で、最も使用人として
一般的なショタモンスターは、
やはりエルフショタである。



人形のような可愛らしさに、
程よいプライドの高さ、そして、
一度服従させると従順になる
性質などから、最も需要が高い。

最近では、エロ可愛いコスチューム
などを着せて身の回りの世話を
させるのが、
ご主人たちの間でブームとなっている。

しかし、ちゃんと服従させるには、
やはり最初の躾けが肝心である。

『脱走しようとするとは、お仕置きが必要だな』


エルフショタ
「ふ‥ふざけんなっ！
俺は人間なんかに従わないぞ！」
『これでもか？』
パン
パン
パン
「いっ！　ぐ‥！　ガキ扱いするなっ！
俺は赤ん坊じゃないんだぞっ！」
『なかなか威勢がいいな。
お前みたいなのには、この方が効きそうだな』


エルフショタ
「あっ♥　くっ♥　ど、どこ触ってんだよっ！
変態野郎っ！　はっ、放せぇ‥っ！！」
『おいおい、早漏すぎるだろ。
もう我慢汁がにじんでるじゃないか。
それとも、尻を叩かれて興奮したのか？』
「ちが‥‥っ♥　はっ♥　うぅっ♥
も、もうやめろぉっ♥」
ブル
ブル
ブル
『他の使用人の前で、
無様に射精してみろよ。
二度と生意気な口なんて
きけなくなるだろ？　なぁ』
「いやだっ！　ふざけん‥‥っ！！」
ニチッ
ニチッ
トロォ

エルフショタ

「おっ♥　おっ♥　やめっ♥
で‥出る♥　い、イッてる‥っ♥
触‥るな‥っ♥　止め‥はぁぁっ♥」

『あ～あ、射精したな。恥ずかしい奴だ。
だが、お仕置きに、このまま何回も
イカせてやろう』

「やめっ♥　い、今っ♥　今はっ♥
放しっ♥　も‥だめぇっ♥」

『ご主人様に従う気になったら、
いつでもやめてやるさ』



こうして、
痛みと屈辱を与えながら
プライドをへし折っていき、
最後には、
絶対に逆らったりなどしない
従順な使用人に躾けられるのだった。

ゾンビショタ

ゾンビショタは、少々特殊なショタモンだ。
“死んでいる”ので、動きは遅く、使用用途もやや限られてしまう。



しかし、その特殊な性質を活かして、他のショタモンにはできない仕事を任されることもある。
例えば、竜の餌やりなどだ。
他のショタモンでは、竜と同じ檻に入れられた時点で餌と間違われて襲われることがあるが、
竜はゾンビを食べないからだ。


ゾンビショタ
しかし、もし竜が発情期であった場合、動きの遅い
ゾンビショタなどは、簡単に捕まって、
別の意味で喰われてしまう。
うあぁ
ビクン
だが、発情期の竜の性欲処理も、ゾンビショタの
仕事なのである。


ゾンビショタ
「ま、まてっ！　俺は餌を持ってきただけ‥っ！
おっ♥　お♥　やめっ♥　待ってっ♥　待ってくれ♥」
『おい、餌を食わせ終わるまで、檻から出さねぇからな』
おっ
おっ
おっ
ズッ
ズッ
ズッ
ピッ
「そんな‥っ♥　た、助け‥っ♥　ひいぃぃ♥」



この後、ゾンビショタは3日間ぶっ通しで竜に犯され続けたのだとか。

触手ショタ

特に強くもないが、個体数が少ないせいで希少価値が付くショタモンもいる。



この触手ショタなどは、認知度が低く、レアモンスターとして扱われている。臆病で、なかなか人前に姿を現さないことも、珍しさに拍車をかけている。


触手ショタ
『よかったな。さっそく、金持ちから予約がかかったぜ』
『初物でよこせって言うから、
犯すわけにはいかねぇが、味見ぐらいならいいだろ』
ひゃあっ
触手系モンスターの体表の粘液は美味らしい、
というのは、まことしやかに囁かれている噂だ。


触手ショタ
「やっ、やめてっ♥　な･･･舐めちゃダメ･･･っ♥」
『おやおや、触手を舐められて勃起してるのか？』
『全身が性感帯っていうのはほんとなんだな』
じゃる
じゃる
はっ
はっ
はっ
ビクン
トロォ
『しかも、粘液甘くて美味いな。
触手の先端から溢れだしてくるぜ』
「も、もうやめて･･･っ♥　やめてください･･･っ♥」


触手ショタ
「ふあぁぁっ♥　出ちゃう‥っ♥　やぁぁっ♥」
『触手から射精してね？』
『粘液美味いわw』
ビクッ
ぶあぁぁぁ
じゅる
じゃる
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
『これから、ご主人様にたっぷり可愛がってもらえよ』
「やだ‥っ♥　も、もう帰らせてぇっ♥」
触手ショタは、この後無事にご主人様の元に
引き取られて行った。

ゴーレムショタ


ゴーレムというと、元々は人工的に作られたモンスターであるが、近年では野生化し、自然に繁殖している。
しっ
その特徴は、何より強靭な肉体で、幼いうちから人間とは比較にならない頑丈さを発揮する。


ゴーレムショタ
『こいつ、暴れてハンター仲間を怪我させておいて、
まったく反省してねぇな』
ゴッ
ゴッ
『おら、お仕置きだ！　サンドバッグにしてやる！』
「フン、効かねぇよ。
どうせなら、ハンマーでも持って来い」
『だとコラ！』
しかし、そんな強靭なゴーレムにも、当然弱点はある。


ゴーレムショタ
『ち〇ぽ勃起させて、何粋がってんだクソガキ！』
めぁっ
パァン
「あぁっ！？　いっ！　や、やめろ！！　卑怯だぞ！！」
『仲間怪我させといて、卑怯もクソもねぇよ！　おら！』
「いっ！？　ぎっ！！　ひぃいっ！！」


ゴーレムショタ
「んおおぉおっ♥　やめてっ♥　やめてくれぇっ♥」
『おい、こいつち〇ぽシバかれて射精してんぞw』
『ド変態じゃねぇか、このクソゴーレムがよ！』
「いぐっ♥　ひぃいっ♥　痛っ♥　いっ、イクうぅっ♥」
唯一攻撃が通る急所を責められると、自分の意思に
関係なく、ゴーレムも体が反応してしまうらしい。
やはり、囚われたショタモンには、
服従以外の道は残されていないようだ。

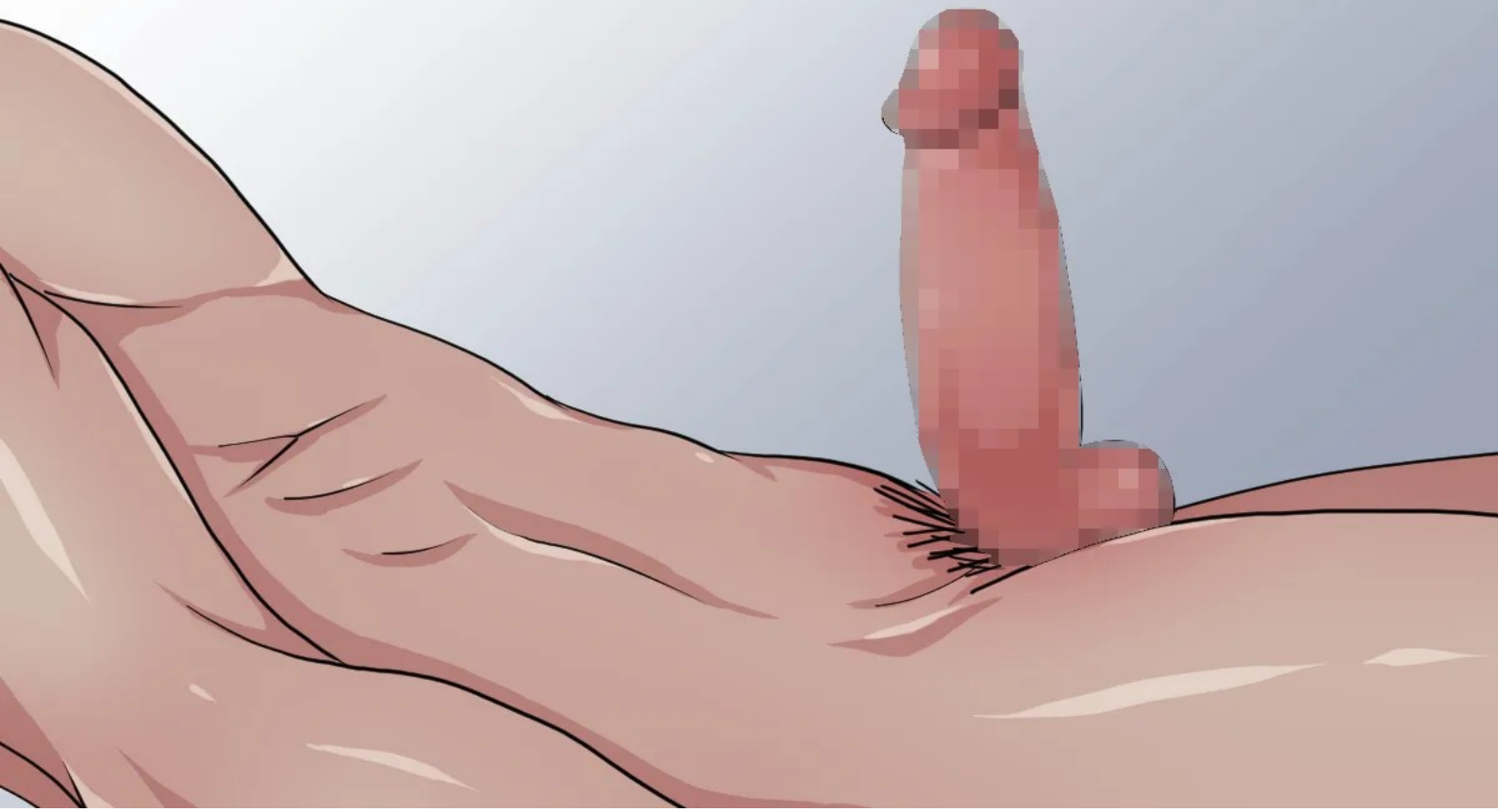
サキュバスショタ

サキュバス、というと、雌しかいないように思うが、
サキュバスにも雄が存在する。

この地域では、
女性を狙う雄の淫魔をインキュバスと呼ぶのに対し、
男性の精液を狙う淫魔は、性別にかかわらず
総じてサキュバスと呼ぶのだ。

この手のサキュバスショタは、
躾けるまでもなく、自ら人間の元にやってきて、
飼育されることを望む場合がある。

とはいっても、それは餌を手に入れるための戦略的行為であり、
本心で人間の支配を望んでいるわけではない。
しかし、それでも十分需要と供給が成り立つので、
人間としても、そう言ったサキュバスショタを受け入れ、
飼育しているものがいる。



「ご主人様♥　今日も、美味しい精液、たくさん出してね♥」

サキュバスショタ



通常、サキュバスは人間の精液を容赦なく搾り取るが、
まだ幼い事と、自分が強く成長するまで長く庇護下に居続けたい
のとで、サキュバスショタは過剰に生気を吸いすぎるような
ことはしない。



まだ成人していないサキュバスは、技術を習得中であり、ご主人様の反応を見ながら、楽しませ方を磨いていく。
ご主人様からしても、自分のために尽くしてくれるけなげなサキュバスを見て、悪い気はしないのである。最後には人間の生気を吸いつくして殺してしまうため‥、であるとはいえ。


サキュバスショタ
「あはあぁぁっ♥　ご主人様の精液きもちいぃっ♥
も、もう一回っ♥　お願いっ♥
もっと犯してっ♥
中に出してぇ♥」
ブルンブルン
あはあぁ
ブル
ブル
ブル
ブル
ビュッビュルル
ブルブルブルブル
そしてご主人様は、いつしか自分が
サキュバスなしにはまともな性生活を
送れないことに気付くのである。
さらに、遠くない内に、
成長したサキュバスのどん欲さにより、
なす術もなく死ぬまで精液を
搾り取られて腹上死する未来が待ち受けているのだった。

ショタモンは、人間サイズのものばかりではない。

妖精ショタ



妖精などは、最も小さいショタモンの一つで、素早い動きと
飛行能力から、滅多に捕まることはないが、
捕まると高値で売買される。

『人形みたいでかわいいなぁ♥』

「くそ、放せ！　下賤な人間め！」


「うあぁぁぁっ！！？」
『おぉ、ほんとに入ったぞ！　妖精って、ほんとにオナホみたいになるんだ♥』
妖精ショタ
ズクン
うあぁぁっ
ズレ…
ボコォ
「苦し･･･っ！　い、息できな･･･っ！
ぬっ、抜いてくれっ！　頼むから･･･っ！！」


「お〝♥　お〝っ♥　お〝ぉ♥　ぐるし‥っ♥」
妖精ショタ
おっ
ぐっ
ぐっ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
『あはは、キツくて気持ちいなぁ♥
死んじゃわないか心配したけど、大丈夫そうだねぇ♥
じゃあ、中出ししちゃおうかなぁ』
「や〝めっ♥　た‥頼むから‥っ♥　も‥助け‥‥っ」


妖精ショタ
「う〝あぁぁぁっ♥」
ブチュッブチュッ
『すごい零れてるなぁ、まぁしょうがないか。
これから毎日使ってあげるから、
妖精オナホ役がんばってね♥』
「やだっ♥　嫌だっ♥　か、解放してっ♥　許してくださいぃっ♥」
腕力では絶対に勝てない妖精は、鳥かごで飼われ、この先一生
愛玩ペットとして飼殺されるのだった。

魔王ショタ

とあるショタモンハンターは、長年かけて、伝説のショタモンを捕獲することに成功した。

それはなんと、魔王の子供、次期魔王のショタモンである。

とはいえ、腕力では勝てなかったハンターは、言葉巧みにショタモンを誘惑し、自分の家へと連れ帰ったのである。

「で、何だよ、おっさん。俺のおふくろがサキュバスだから、この俺にもお前の相手してほしいんだろ？　いくらお前が巨根だからって、魔王の息子が負けるわけねぇだろ」




魔王ショタ
「俺が勝負に勝ったら、ほんとにお前の命貰っていいんだよな？
この村も皆殺しにさせて
もらうけど、
それでいいんだよな？」
父から、人間の魂を奪うことをまだ禁止されているらしい魔王ショタは、
ハンターの誘いに乗って、騎乗位でち〇ぽを挿入する。


魔王ショタ
「さ、先にイッた方が勝ちだからな‥っ♥　え、俺が負けたら‥‥分かってるよ、
お前のペットになるんだろ？
魔王の息子だぞ、
約束は守るって‥‥♥」
あっ
あっ
あっ
トロォ…
ビクン
ビクン
ヘコ
ヘコ
ヘコ
ヘコ
ズ
ズ
ズ
（や、ヤバい、こいつのち○ぽマジできもちい‥‥っ♥　でも、負けられねぇし、
早くイカせないと‥‥こっちが先にメスイキしそうだ‥‥っ♥）


魔王ショタ
「あ‥ヤバいっ♥　これっ♥　待っ‥‥おほおおぉぉ♥」
おほおおぉ
ゾクゾクッ
「た、タンマっ♥
休憩させてくれ‥‥っ♥
い、今の無しで‥‥っ♥」
プシャアアッ
しかし、先にメスイキした
魔王ショタは、契約に縛られて
ペット化することに
なってしまった。
両親に行き先を告げずに
来てしまった魔王ショタは、
ハンターが解放すると宣言するまで
この小屋に縛られてしまう。
巨根ハンターの勝ちである。
ドピュッ
『これから、毎日お前のケツま○こに種付けしてやるからな♥』
「くそぉ‥‥っ♥　俺が人間なんかにぃ‥‥っ♥」
魔王と言えども、ショタモンはすべからく人間に飼われる運命なのだった。